

宜 基 渉 第 45 号
平成 30 年 6 月 12 日

第三海兵遠征軍司令官・沖縄地域調整官
ローレンス D. ニコルソン中将 殿

宜野湾市長 佐喜眞 淳

普天間飛行場へのジェット戦闘機飛来並びに米軍機による夜間騒音被害
について（抗議・要請）

まちのど真ん中にある普天間飛行場は、市街地と隣接していることから、墜落の危険性や、騒音等の基地被害が市民の大きな負担となっている。

特にジェット戦闘機をはじめとする外来機の飛来については、市民生活に甚大な影響を与えることから、本市はこれまで、あらゆる機会を通じて普天間飛行場への外来機の飛来禁止を強く要請している。

しかしながら、6月8日午前8時から同8時6分頃にかけて、ジェット戦闘機が相次いで普天間飛行場に飛来し、市内全域で非常に大きな騒音が確認された。特に、上大謝名地区においては、最大121.1dBもの騒音が測定されており、「今まで聞いたこともない音で近い距離で飛んでいて恐怖を感じた。」といった市民の悲痛な声が本市に複数寄せられている。

加えて、夜10時以降の夜間騒音の被害も常態化しており、市内全域で夜間騒音が多数測定されるとともに、夜間騒音等の被害を訴える苦情が増え続けている。先週だけでも苦情が20件寄せられ、「子供も寝られなくて困っています。」といった市民の切実な訴えが後を絶たない。

市民の負担は既に限界を超えており、市としても市民が実感できる危険性除去及び基地負担軽減を強く求めている中で、このような更なる負担となるジェット戦闘機の普天間飛行場への飛来や米軍機による度重なる夜間騒音被害を、断じて容認できるものではなく、極めて遺憾であると言わざるを得ない。

ついでには、外来機であるジェット戦闘機の普天間飛行場への飛来と米軍機による夜間騒音被害に厳重に抗議するとともに、市民生活に十分配慮するよう強く要請する。